



# 瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

四旬節第 1 主日 B 年 (2024 年 2 月 18 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：創世記 9 章 8 — 15 節

第二朗読：ペトロの手紙一 3 章 18 — 22 節

福音朗読：マルコによる福音書 1 章 12 — 15 節

## 誘惑、試練、荒れ野とは

三つの朗読から

第一朗読で「地を滅ぼすことは決してない」(11 節) と神さまは仰います。しかも、その約束のしるしとして神さまは「虹を置」(13 節) きます。神さまは「虹」を見るたびに、人間と立てた契約を思い起こします。滅ぼさない神さまは、新しい手だてで人間を救おうとし、そのことをいつも思い起こす。そんな方なのです。

第二朗読の「水の中をとお通きって救われました」(21 節) は興味深いです。水には二重の意味があります。モノを清めるといはたらく働きと、モノをのみ込こむというとてもない悪魔的な働きという二重の意味です。清めと悪という二面性をイエスさまは取り去ります。復活したイエスさまによって獲得された新しい意味は、いのちの再生です。

福音の「霊は……送り出した」(12 節)。かつて契約のしるしとして虹を天空てんくうに現あらわした神の霊は、人々を再生するために水の中を通からせます。そして、同じ神の霊がイエスさまを荒れ野へと導みちびくのです。洗礼を受けたわたしたちもまた、神の霊と共にあって、この世の荒れ野へと導かれるのです。

今日の福音はサタンの誘惑ゆうわく (12 — 13 節) とガリラヤでの宣教活動の開始 (14 — 15 節) の二つに分けられます。イエスさまの洗礼の場面で、イエスさまが神の子であると宣言せんげんされました (9 — 11 節)。そして、霊に導かれて荒れ野へと向かいます。ここまでが『マルコによる福音書』のプロローグとなります (1 章 1 — 13 節)。その後、イエスさまの宣教活動が展開てんかいされます。

12 節から 13 節の、イエスさまがサタンから誘惑かしよを受けた箇所は、原文中の一語一語を忠実ちゅうじつにた

どる逐語訳を試みると、次のように構造を分析できるでしょう。

- ① ① そして すぐに 霊は 彼を 送り出す 荒れ野に。  
 ② ② そして 彼はいた 荒れ野に 四十日間 試みられて サタンに。  
 ③ ③' そして 彼はいた 一緒に 野獣と。  
 ④ ④' そして 天使たちが 仕えていた 彼に。

霊と天使の対応(①-④')に挟まれて、「いた」で始まる二つの文章があります(②-③')。そこにはサタンと野獣が登場しています。①と④'の主語は霊と天使です。ですので、霊に導かれ、天使たちが仕える中で、イエスさまはサタンと野獣からの攻撃にさらされていたのです。

「野獣と一緒に」をどのように理解するかで、12-13節のニュアンスは変わってくるかもしれません。「一緒に」を野獣との平和的な共存と見なしたら、マタイやルカと同じように、イエスさまが悪魔の誘惑に打ち勝ったことを意味するでしょう。しかし、ただ単にサタンと野獣がイエスと共にいたととらえるなら、荒れ野での誘惑と、それと争うイエスさまの試練の厳しさを表すものとなります。

④'での「仕えていた」は未完了形です。この動詞の時制は、過去における継続的な動作を表します。ですから、天使がイエスさまに仕えていたのは、サタンとの争いと対決が終わってからではなく、四十日間続いた対決の間、ずっと仕えていたことを意味します。

四十日間、イエスさまは天使たちの世話を受けつつ、その一方でサタンと野獣たちと争ったこととなります。イエスさまを守ろうとする側と、イエスさまを滅ぼそうとする側の熾烈な闘いがあったのです。

ところで、12節にある「荒れ野に送り出した」の「送り出す」はエクバローですが、『マルコによる福音書』では16回使われ、そのうちの12回は悪霊を「追い出す」の意味で使われます。残りの4回は「追放する」の意味で使われます。福音書の作者はこの動詞に強い意味をこめておりと想像できます。13節の「誘惑を受けられた」はギリシア語でペイラザーといいます。もともとは「何かをしようと試み、努力する」の意味ですが、次第に宗教的なニュアンスが加わって「試みる」という意味へととなりました。今日の福音の箇所では、サタンが「罪へと誘う」という意味で使われています。どのように罪へと誘ったか、その試みの手段については『マルコによる福音書』はなにも語りません。

福音書の作者にとって、荒れ野とは神的な力(霊、天使)と、悪魔的な力(サタン、野獣)が共存している場所です。そういった点で荒れ野とは、現代のわたしたちが生きている現実の世界を象徴しているのだと思います。